

## (一般質問)

質問日	令和8年3月10日(火)			質問方式	分割方式		
質問順位	6	会派名	自由民主党浜松	議席番号	14	氏名	小泉 翠
表 題	質 問 内 容						答弁者の職名
1 浜松城公園の魅力向上について	<p>四季を感じられ、何度も訪れたいくなる浜松城公園とすることで、市内外の方のみならず、インバウンドで訪れたいと感じる魅力的な公園にすることができると考える。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 中野市長は、施政方針の中で浜松城公園の利便性や魅力の向上について述べているが、市長が考える魅力とは何か、また、今後どのような浜松城公園の姿を思い描いているのか、市長の考えを伺う。</p> <p>(2) 全国各地では、城や歴史的空間を舞台に、デジタル技術を活用したり夜間イベントを開催したりするなど様々な取り組みが行われ、新たな来訪動機や賑わいの創出につながっている事例も見られる。</p> <p>浜松城公園についても、魅力を高め、より多くの人を訪れたいと感じる公園づくりが必要と考えるが、今後の浜松城公園の魅力づくりにつながる取り組みについて伺う。</p>						中野市長  中村花みどり 担当部長
2 家康公検定について	<p>徳川家康公や浜松城の歴史を深く知り、学ぶ機会を提供することも、賑わいの創出につながると考える。</p> <p>その一つの手段として、徳川家康公に関する知識を学ぶことができる家康公検定がある。家康公検定は、家康公ゆかりの地である岡崎市や静岡市など全国8会場受験することができるが、本市では開催されていない。浜松城の魅力向上や、市民・来訪者の歴史理解を深める取り組みとして、家康公検定を浜松市内で受験できる機会を設けることについて、本市の考えを伺う。</p>						中村観光・ブランド振興担当部長
3 産後ケア事業及び産後のフォロー体制について	<p>令和元年の母子保健法改正により、令和3年度から「産後ケア事業」の実施が市区町村の努力義務となり、本市でも拡充を重ねて取り組んでいる。本市の産後ケア事業は、全国平均と比べても高い利用率・申請率となっており、成果を上げている制度である。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 産後ケア事業は実際に利用されたかどうかだけでなく、必要になったときに、いつでも利用できる状態が確保されていたかどうかという視点も重要である。必要なときに必要な人が、迷わず使える状態が確保されているかという観点から、本市の産後ケア事業をどのように評価しているのか伺う。</p>						平野医療担当部長

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>(2) 産後ケア事業は、利用する際に自己負担金が発生することから、申請にあたっては本人の意思確認が重要である。一方で産後ケア事業は実際に利用するかどうかを産後の状況に応じて判断する性質の支援でもある。</p> <p>現在の申請では、申請理由として体調不良や授乳への不安など、困りごとが顕在化している状況を前提とした選択肢が中心となっているが、申請理由の選択肢について、必要になった場合に備えておきたいという利用意図も含めた設計とすることで、産後ケア事業の本来の役割に合致するのではないかと考える。本市の見解を伺う。</p> <p>(3) 現在の制度では、申請自体はWEBで完結する一方で、助成決定通知は書面で交付され、利用時にはその書類を施設で提示する運用となっている。</p> <p>産後という心身ともに余裕のない時期に、申請から利用に至る過程でデジタルと書面が混在する現在の運用が、利用のしやすさという観点から本来の制度の目的に沿ったものとなっているのか、本市の見解を伺う。</p> <p>(4) 産後の困りごとは非常に短い期間で状況が変化するという特徴があり、産後は判断や手続きを行う余裕が乏しい状態であるとも言える。健診時のアンケートや、その後のフォローによって困りごとを把握する取り組みが行われているが、把握した時点と実際に支援が届く時点との間に、状況の変化によるギャップが生じている可能性について、どのように検証しているのか伺う。</p>	
<p>4 南陽協働センター及び南陽図書館の改修について</p>	<p>芳川地区の南陽協働センターは、併設する体育館及び南陽図書館を含めた大規模改修により、施設全体が約2年間利用できなくなっている。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 本市として、この期間の南陽協働センターにおける地域住民への影響とその対応について、どのように考えているのか伺う。また、その影響を最小限にするために代替施設の案内や利用者団体のサポートなど、どのような対応を講じているのか伺う。</p> <p>(2) 南陽協働センターとともに休館となる南陽図書館は、読書や学習の場であるだけでなく、子どもから高齢者までが日常的に利用する、地域にとって重要な公共サービスである。施設が長期間利用できなくなる場合に、本市として自動車文庫などを含め、図書館サービスの代替手段についてどのような考え方を持っているのか伺う。</p>	<p>岡安中央区長</p> <p>嶋野文化振興担当部長</p>
<p>5 渇水対策について</p>	<p>昨年12月1日、本市ホームページにおいて「節水のお願い」と題し、本市の水道水の水源である天竜川の水量が減少していることから、12月2日より取水制限を開始し、市民に節水への協力を呼びかけている。その後、</p>	<p>奥家水道事業及び下水道事業管理者</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>取水制限は段階的に強化され、12月19日には10%まで引き上げられている。現在のところ断水などには至っていないものの、水は市民生活や経済活動に欠かせない基盤であり、将来にわたって安定的に需要量を確保していくことが重要である。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 本市の水道水供給のうち、天竜川からの取水が大部分を占める中、冬場の異常少雨による渇水で取水制限に至っている。今回の渇水の要因と今後の見通しについて伺う。</p> <p>(2) 国は気候変動に対応した水供給の確保に向けて渇水対応タイムラインの策定を推進しており、本年2月25日時点で全国の国直轄河川109水系のうち38水系で策定・公表済みである。天竜川水系においても早急な策定が求められているが、国が進める渇水対応タイムラインの概要と、その策定期間について伺う。</p> <p>(3) 節水には市民の協力が不可欠である。そして、市民の納得感が節水への協力の広がりにつながると考える。今回の状況を単なる一過性の事象として終わらせず、次に備えた仕組みづくりを進めていくこと、更に市民生活のあらゆる場面で節水意識を高めていただくことが重要と考えるが、節水に対する取り組みについて伺う。</p>	
<p>6 統一地方選挙を見据えた対応について</p>	<p>(1) 行政区再編に伴い、次回の統一地方選挙では、中央区や浜名区に設置されるポスター掲示場がこれまでより大規模になると認識している。次回の統一地方選挙で想定されるポスター掲示場の規模・数量、それに伴う資材使用量をどのように見込んでいるのか伺う。</p> <p>(2) ポスター掲示場は選挙という一過性の用途で使用された後、多くが廃棄されていると伺っている。他自治体では、ポスター掲示場の木材を学校行事や教育活動の素材として活用した事例もある。本市として、次回使用されるポスター掲示場の資材について、選挙後の再利用を図る余地があるのか伺う。</p> <p>(3) 第51回衆議院議員総選挙の期日前投票所では、特に大型商業施設において混雑が見られ、待ち時間が1時間以上発生した。市民の中には、待ち時間が長くその日は投票を諦めたという声もあり、市民の利便性が低下した事態と捉えている。次回の統一地方選挙に向けて、混雑を緩和するための改善策について伺う。</p>	<p>田中総務部長</p>